

8月10日（日）主日礼拝レジュメ

「帰れる場所」 使徒の働き4章23～28節

釈放された使徒たちは当然のように仲間の兄弟姉妹たちの所へと帰って行き、祭司長たちや長老たちが彼らに言ったこと、イエスの名によって語ってはならないと言われたことを報告した。

彼らが最初にしたことは（ ）。

神は使徒たちを迫害した指導者たちよりもはるかに力があるということと神のみこころに反することを行おうとするならば決してうまくはいかないことを信じていた。迫害の中にあっても、人々は祈りによって神から慰めと励ましを受け、なお主を証しする大胆さと主のみわざを祈り求めている。教会の中の内外の問題があるときに、私たちがまずなすべきことは祈りである。

彼らの祈りは（ ）から始まっています。

主よとの呼びかけ。神はこの世のすべてものを支配し、権威を持っている。使徒たちに起こっている出来事のすべては神の支配の中にあること、すべて神のみこころの中で許されて、起こっていること。

詩篇2篇の引用。

26節「地の王たちは立ち構え、君主たちは相ともに集まるのか、主と主に油注がれた者に対して。」これは、イスラエルの国の歴史の常だった。神に対する人の心のかたくなさから引き起こされている。キリストを受け入れず、彼を捕えて、十字架につけて殺してしまったことも罪の結果。神の全地に対する力と支配と主権を信じている使徒たちは決してそのことを恐れたり、不安や心配、将来の思い煩いが出てくることはなかった。

() 祈っている。指導者たちの迫害は、教会を一つにする重要な役割を果たした。

教会の中に大なり小なりさまざまな問題が起こる。その時に、心を一つにして神に向かって祈る。心を一つに祈るなら、起こってくるさまざまな問題が教会を強くし、また群れを一つにする役割を果たしうる。

彼らは指導者たちを罰してください、さばいてください、滅ぼしてくださいとは祈っていない、むしろ主から力が与えられて自分たちの役割、使命を果たすことができるようにと祈っている。

私たちも使徒たちのように自分たちには帰るべき場所がある。教会の仲間だから、主にある兄弟姉妹だから言えることがある。そのような場合に余計なアドバイスをせず、根掘り葉掘り聞かず、「祈ろうか」と心を一つにして祈ればよい。そのような交わりを築いていくことができるように、そのような交わりになっていくように祈りましょう。